

都市公園池のアメリカザリガニ防除と在来種保全

認定 NPO 法人 生態工房 佐藤 方博

1. かいぼりをきっかけに始める保全活動

池や濠を擁する都市公園の多くは、水質悪化と外来魚による生物多様性の喪失という課題を抱えている。この二つを解決する方法としてかいぼり（池干し）が注目され、さまざまな公園で行われるようになってきている。演者の団体は東京都・埼玉県にあるいくつかの公園で、かいぼりをきっかけにボランティアを公募し、外来魚等の問題を解消した後も水辺のさまざまな課題に対する取組を継続している。こうした協働のスタイルと、取組内容の多くを占めるアメリカザリガニ防除について紹介する。

2. かいぼり後の取組とアメリカザリガニ防除

かいぼりによって池の水質と外来魚の問題が解消されると、池の環境にさまざまな好ましい変化が起きる。在来魚の回復、トンボ等の水生昆虫の増加、カイツブリなどの水鳥の増加、水草の再生などである。水環境が再び悪化することがないように、これらのモニタリングを行い、今後の取組に役立てることがかいぼり後の取組の柱となる。かいぼり後に回復した在来種を市民に紹介し、自然が再生した池の価値や楽しみ方を普及していくことも重要である。

実際の活動の中でもっとも労力を費やしているのはアメリカザリガニ防除である。アメリカザリガニの捕獲ワナについては、シナイモツゴ郷の会が考案した効果の高いワナをはじめ、各地でさまざまなワナが用いられている。防除を成功させるためには、効果的なワナを選択することはもちろん、それを十分なワナ数（回数）で運用することが肝心である。

さらに演者の活動地では水鳥とカメのワナへの混入が起りやすいことから、これらの進入を防ぐワナを考案した。このワナと他のワナの捕獲効率の違いや使用感について報告する。



図1 アメリカザリガニ用ワナ
水鳥やカメの混獲を防止するために進入口の漏斗の直径を規定している。